



東京湾のライトアジは 初夏のトリップシーズンへ

東京湾の釣り物の代表格といえは、今やライトアジといつて過言ではないだろう。その名のおり道具立ても軽量級。タナ取り、コマセワークなど基本的なコツさえしつかりつかんでしまえば、初めて竿を握る人でも期待以上に楽しむことができる釣りだ。また、基本は簡単でありながらも、人より多く釣るにはそれなりの奥の深さもあり、

この釣りにハマってしまったベテラン釣師が多いのもこの釣りならではの。さて、年間通してにぎわいを見せている東京湾のライトアジ釣りだが、私の独断で強いてトリップシーズンをあげるなら5〜7月の期間。理由は3つ。一つ目は水温が上がり、潮に濁りが入ることと釣り場の水深も20メートルを切る浅場となるからさら



▲東京湾のライトアジはこれからますます楽しい時期を迎える

に釣りやすくなる。二つ目はサイズ。ライトアジといえは20センチ前後の中小型がアベレージだが、この時期は30センチを超える大型が交じる割合が高くなる。そして三つ目はその食味。年間通して抜群に美味しい湾奥アジだが、この時期は脂の乗りがさらに増し、抜群においしいくなる。

暮開きは良型イシモチ

推すからには実釣レポートしなければ、ということ釣行したのは5月下旬の日曜日。船宿は東京湾奥金沢漁港の仁春丸。当日の乗船者は私を含め8名で、定刻の7時20分に出船となった。八景沖の前でスパンカーを上げると、ポイントへ向けて航行開始。といっても釣り場は目と鼻の先。ゆっくりと10分ほど走ったところでエンジン



▲仁春丸は船宿の目の前が船着き場

上がってきたのはイシモチ(シログチ)。これを合図に船中あちこちで良型イシモチが釣れ上がり、ちよつとしたイシモチフィーバーの幕開けとなった。しばらくするとコマセが効き出したのか本命アジも姿を見せ始めた。18〜20センチのアベレージサイズに、「もっと大きいのが釣れたら撮ってくださいよ」とカメラ



▲イシモチはライトアジの定番ゲスト

を向けると皆さん照れ臭そうに言うが、そう言いながらも「この金色のアジが最高にうまいんだよね」とニッコリ。魚探には底から3メートルくらいの高さでアジの反応が映し出されているが、その割にはポツリポツリとアタリ

知得! Tips and Tricks

アジをおいしくいただくには

釣りに夢中になるばかりに、釣った魚をバケツの中に入れて放しにして死なせてしまう……。これではせっかく釣った魚も食べられない状態になってしまう。魚をおいしくいただくには船上での保管、持ち帰り方が大事。クーラーの中には氷だけでなく、沖でくんだ海水も入れておき、魚が釣れたらなるべく早く海水氷が効いたクーラーの中へ。これからの夏シーズンはとくに気を遣いたい。

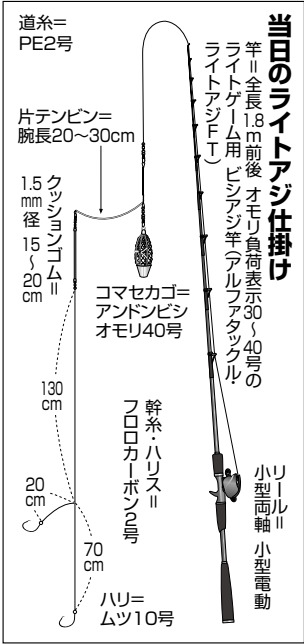
▶釣れたら早めに海水氷の効いたクーラーへしまおう

ペースは今イチ。「潮が流れてないからアタリが悪いですね」と船長。それでも時間の経過とともにペースは上昇。釣れ上がるアジもひと回り大きい22〜25センチサイズが交じるようになってきた。

30センチ超級が連発

画撮り作業が一段落したところで私も参戦。基本的な釣り方はタナが底上2メートルの場合、オモリ(ビシ)が着底したら糸フケを巻き取り、底から1メートル巻き上げたところでコマセを振り、さらに1メートル巻

•Tackle Guide
ビギナーはまず仕掛けの扱いに慣れることが大事。2本バリ仕掛けから始め、全長2メートルあれば40〜50センチ短くカットして使用するといいい。



き上げコマセを振ってアタリを待つ。多少コマセの振り位置がアウトであってもタナさえ取れていればアジは十分にヒットしてくる。しかし、当日はちよつとアジのご機嫌が斜めなようで、コマセを振って待っているだけではアタリが遠い状況。そこでビシが着底したら50センチほど底を切り、3〜5秒置いて仕掛けをなじませたら、50センチほどの振り幅で竿をキュッとシャクリ、シャクリ上げた分竿を下げながら道糸を巻き取り、またすぐにシャクリを入れる。キュッ、クル、キュッ、クルと間を置かず3回繰り返したところで底上2メートルのタナに達する。タナに達するとすぐさまクック、キュキューンとアジからのラブコール到来。



▲30センチを超えると引きがひと味違う
▼中小型でも抜群においしい

タナでコマセを振り、潮任せでアタリを待つよりも、コマセと仕掛けの同調が早く、また仕掛けがコマセの帯の中ですでに張った状態となっているため、アタリの出が早く、かつアジの上アゴに掛かる率が高いのでバラシも少ない。アタリを待つ時間は10秒ほど。それでアタリがこなければすぐにビシを落とし直し、最初の動作を行う。2往復してアタリがこなければ即巻き上げてコマセを入れ替える。この釣法で開始から連続10投空振りなくアジを取り込んだところ、

「写真撮ってあげて!」と船長から声がかかる。左舷ミヨシ1番の高木さん

が手にしていたのは黄金色に輝く30センチサイズ。「これはデカそうだ!」と慎重にリールを巻く右舷胸の間の小西さん。すかさず船長がタモを入れ、歓声とともに上がったのは35センチ超サイズ。右舷大ドモの黒岩さんの竿もギョングン絞り込まれている。これもライトアジの常識を覆す35センチ超サイズだ。「今年はずっと遅れているけど、これからの時期はこのサイズが水深20メートルを切る浅場で釣れるようになりませう」と船長。



後半は潮が完全に止まってしまい、アタリも失速。南西風が強くなってきたこともあって、定刻の13時より少し早めの沖揚がりとなった。

当日の釣果は18〜38センチのアジが20〜28尾。私も撮影の合間2時間ほど竿を出して25尾の金アジをゲット。釣り方簡単、食べても超おいしい東京湾のライトアジ。レジャーシーズン、ファミリーやカップルでの釣行はコレで決まりでしょ!



▲私も取材の合間に25尾をゲット

船宿 information
東京湾奥金沢漁港
仁春丸
☎045-781-8537
(詳細は巻末の情報欄参照)

小泉 学船長

▶料金=ショートライトアジ乗合一人 8000円
▶備考=予約乗合。7時20分出船。レンタルタックル、仕掛け完備。タイラハ乗合も受付